

# 令和 4 年度 三 好 市 立 学 校 評 価 報 告 書

作成日 令和5年3月14日

学校名( 池田中学校 )

校長名( 窪田 和弘 )

## 1 総括評価

評価分野	自己評価 (平均値)	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 学校経営及び学校運営に関する評価	3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの効果的な活用のための研修を計画的に行うことができた。生徒も活用の幅が広がり、学習や活動が豊かになった。</li> <li>各専門委員会の活動の中にSDGsのねらいを取り入れた活動ができた。</li> <li>生徒との信頼関係を築くことができた。</li> <li>学びサポート配置事業や学校支援活動により、比重学習や授業支援が充実し、豊かな学びを実現できた。</li> <li>タブレットの活用が、授業だけでなく集会や生徒会選挙、学校評価アンケートなど幅広く活用できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革を進める上で、保護者連絡をメールですることも考える時期にきているのではない。</li> <li>51%の生徒がコロナに感染したが、教育課程の完全消化はできるのか。</li> <li>授業でのICT活用が定着し、生徒にとっても分かりやすく、理解を深めることにつながっている。</li> <li>十分な体験活動はできなかったが、内容を工夫し、生徒にとって有意義な学習が行われてきたと感じる。</li> <li>コロナの影響でストレスを感じ、気力がなく、悩みを抱えている生徒が増えていないか心配である。カウンセラーを十分活用できているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現することの苦手な生徒が多いという課題があり、校内研修のテーマとして協議を行い、学習形態や発表方法などについて、全教職員で共通した取組をすすめ、課題の改善を図っていく。</li> <li>家庭での学習時間確保のため、生徒会がSNSやゲームについての提言をし、睡眠時間の確保や生活習慣の改善を呼びかける。</li> <li>学校支援活動は、効果の検証を行い、活動の精選を考えてみる。</li> <li>休日の部活動を含め、教員の働き方改革を学校として取り組む。</li> </ul>
② 教育目標及び教育計画に関する評価	3.6			
③ 主要な教育活動に関する評価	3.7			
④ 保護者や地域との連携等に関する評価	3.5			
⑤ その他、上記以外に関する評価( )	4.0			

(1) 4段階評価とする。

評価基準 4=達成度が 90~100 %  
 3=達成度が 70~ 90 %  
 2=達成度が 50~ 70 %  
 1=達成度が 50% 未満

(2) 総括評価表の「評価(平均値)」については、「2 分野別評価」の(1)~(5)の評価をそれぞれ平均(小数第1位)したものとす。

(3) 分野別評価の「評価項目」の「その他」については、各学校において必要事項を記入のうえ評価する。

(4) 総括評価の「評価分野-その他」の項目の( )には、分野別評価の「(5) その他に関する評価」の中から、特に重要視する事がらを記入する。

(5) 総括評価及び分野別評価の「学校関係者評価の概要」欄は、学校関係者評価委員会(学校運営協議会も可)において評価された結果をまとめたものを記入する。

(6)「次年度の改善策」の欄は学校評価委員会及び学校関係者評価委員会において協議された改善策をまとめたものを記入する。